

平成 27 年度新潟市支部活動報告

新潟市は人口約 80 万人、8 つの区からなる政令市です。保健師は 149 人で、地区担当制をとり、住民や関係機関と協働して健康なまちづくりを推進しています。新潟市支部では、年 2 回の研修会を開催し、保健師の資質向上を図ってきました。これに加え、昨年度から自主研修会にも取り組んできましたので、その活動の一端を紹介いたします。

平成 26 年度の研修会では、日本看護協会常任理事中板育美氏から『保健師活動指針の改定を受けて～新潟市の保健師が取り組むことを考えよう～』をテーマに講義をいただきました。研修後のアンケートで「分散配置の中、保健師全体で今後の保健師活動について話し合いたい」という意見が多く聞かれたことから、「保健師活動の課題、目指すべき方向性の共有」と「保健師間の顔の見える関係づくり」を目的に、統括保健師と当支部との共催で自主研修会を企画し開催しました。

自主研修会は、平日の業務終了後の時間帯とし、9～11 月に月 1 回ずつ 3 回行いました。初めての試みでしたが、各世代にわたり実 118 人（参加率 80%）、延べ 243 人（1 回平均人数 81 人）の参加があり、こうした研修会の必要性を感じていたと思われまます。研修会はグループワークを主として、グループ分けは年代別やくじによる編成等毎回変えることで、より多くの保健師と話せる機会を作りました。地域の健康課題をとらえ、住民や関係機関と課題を共有し、その解決のための連携や必要な施策立案、予防的視点に立った活動など保健師本来の活動にどう取り組むかを考えることができました。その際、世代に関係なく「新潟市の保健師としてより良い活動がしたい」という思いが共通していることが実感でき、今後の保健師としての資質向上のためのモチベーションアップにつながるものと思われました。

『新潟市の保健師としてめざす活動とは』のテーマで、ディスカッションをした内容については、統括保健師と当支部役員が中心となりすべての意見をカテゴリ化し、関連図（図）にまとめました。可視化することによって、全保健師で共有するとともに日頃の活動の指針としています。

今年度は、『めざす活動』の一つである「PDCA サイクルを回した地域活動の展開」をテーマに、PDCA サイクルに基づく地域診断から評価・改善までの保健活動の展開を考え、保健師間でさらに顔の見える関係をつくっていけるよう、10 月から 3 回の自主研修会を開催しています。

これからも、保健師間のつながりを強くし専門性を高め、新潟市がより一層健康なまちになるよう、住民のための保健師活動を推進していきたいと思います。

（文責 新潟市支部長 伊藤由香）

